

値

六年 画数 10
筆順 一 佰 值 値
クシ ね・あた

成り立ち



「十人の人の目の見る所は厳正で、物の本当の『ねうち』が分かる」ということで、「本当の『ねうち』」の意味を表した『直(年195)』と、『人』とを組み合わせて作った字です。

「人の、人としての本当の『ねうち』」という意味の字です。

今は『人』に関係なく、『ねうち(あた)』の意味に使われています。

読む時には、『ね、または あた』と読みます。音のチは、直の音が短く発音され、頭の音だけになったものです。

使い方

▽万年筆を買いに行きました。とても書きよいのがありました。高くて、それだけの値打ちはあると思いましたが、それを買うにはお金が足りなかったからです。

▽物の価値は、見かけではなかなか分かるものではありません。長年の経験が物を言います。

熟語例

▽値段(物の値には、高い物から低い物まで段階があります。それで、『値段』と言います。「物売り買いの時の金額」のことです。)

▽値打ち(値段を決めることを、「値を打つ」と言いました。「決められた値段」のことですが、ふつう、「その物がある本場の価値」の意味に使われます。)

▽価値(価値も『あた』。「物の『あた』」という意味の字ですが、「物の値段を決める、私たちがほしいと思うその物の本質的な中身」の意味に使います。私たちの行動の目標の基準となるものです。)

▽数値(数の値。計算の結果、出た数のこと。『数の中身』を表す数字のことです。)

宙

六年 画数 8
筆順 宀 市 宙
クシ チユウ

成り立ち



『家』の意味を表した『宀』と、『由(寄る)』という意味の『由』とを組み合わせて作った字です。

「家の屋根の寄り所となっている『棟(屋根を支えている木。家の骨組みの中で一番高い所にある横木)』や『梁(棟と直角に交わり、屋根を支えている横木)』を表した字です。

今は、『屋根』の意味を表した『宇』と合わせて、我々の住む地球を包む『空間』を表すことばとして使っています。【例】宇宙。

また、『空中』の意味にも使います。【例】宙に舞う、宙返り。

使い方

▽わたしがせっかくなかき集めた落ち葉は、風にあおられて宙に舞い上がり、庭そうじがむだになりました。

▽ぼくは宙返りが得意です。お父さんは「忍者のようだね」と言って感心してくれました。

熟語例

▽宙(棟や梁のことですが、今では「地球を包んでいる『空間』」の意味に使います。『空中』のこと。)

▽宙返り(空中で、体を一回転させること。『とんぼ返り』とも言います。)

▽宇宙(地球、太陽、星などを包んでいる空間のことを言います。)

▽宇宙船(宇宙空間を飛行する乗り物のこと。)

▽宇宙飛行士(宇宙船の乗組員のこと。)

▽宇宙ロケット(宇宙空間を飛ばすロケットのこと。人が乗って操縦するものと、無線操縦による無人ロケットとがあります。)

▽宇宙線(宇宙に飛び交っている放射線のこと。)

使い方

▽わたしがせっかくなかき集めた落ち葉は、風にあおられて宙に舞い上がり、庭そうじがむだになりました。

▽ぼくは宙返りが得意です。お父さんは「忍者のようだね」と言って感心してくれました。

▽ぼくは宇宙飛行士になって、この広い宇宙を飛び回ってみたいと思います。

熟語例

▽宙(棟や梁のことですが、今では「地球を包んでいる『空間』」の意味に使います。『空中』のこと。)

▽宙返り(空中で、体を一回転させること。『とんぼ返り』とも言います。)

▽宇宙(地球、太陽、星などを包んでいる空間のことを言います。)

▽宇宙船(宇宙空間を飛行する乗り物のこと。)

▽宇宙飛行士(宇宙船の乗組員のこと。)